

業務資料 6737

ゆうかり

第13回移住者子弟技術研修生
研 修 レ ポ ー ト

1985年1月

国際協力事業団

| |
|-------|
| 移 国 内 |
| J・R |
| 85 1 |

RY

JICA LIBRARY



1019634[3]

ゆうかり

第13回移住者子弟技術研修生
研 修 レ ポ ー ト

1985年1月

国際協力事業団

国際協力事業団

| | |
|---------------------|------|
| 受入 月日 '85. 7. 16 | 600 |
| 登録No. 11733 | 23.4 |
| | EMD |

ま え が き

国際協力事業団では、中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し、その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術研修および知識を修得せしめることを目的に「移住者子弟技術研修制度」を実施している。

この制度は昭和46年度から実施し、本年4月に第15回生を迎えることになり、受入れた研修生は、現在研修中の第14回生を含め、総数249名に達している。

本誌は第13回生（研修期間：昭和58年4月～59年9月）の1年6カ月間および第14回生の6カ月コース（研修期間：昭和59年4月～9月）における研修総括報告書および研修記録をまとめたものである。

各研修生は幼い頃両親に連れられて移住し成人となった、あるいは中南米の地で生れた二世・三世の人達の中から選ばれた子弟であるが、父母が生まれ育った国における研修は、単に技術を身につけるということだけではなく、日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっている。

高度成長した日本の社会機構の中で身をもって体験し、かつ、修得した知識と技術を生かし、研修生諸君が帰国後移住地および地域社会の発展に大きな貢献を果すものと確信するものである。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解いただき、研修生徒諸君を温かくご指導下さった、関係機関の皆様にあらためて感謝の意を表わす次第である。

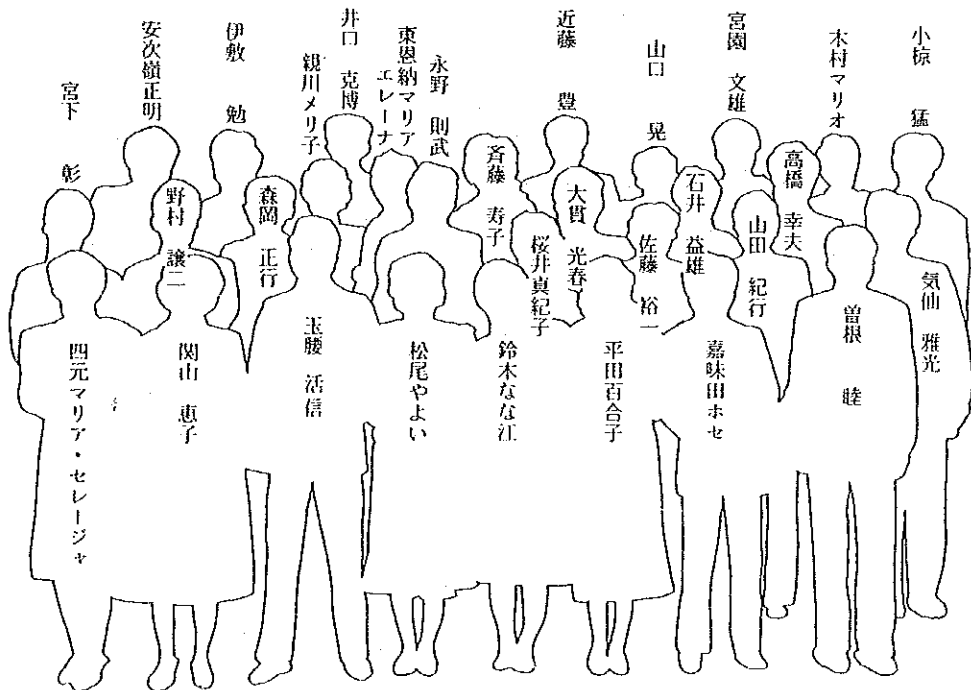
1985年1月

国際協力事業団
移住事業部長



研修修了記念

(昭和59年9月28日 海外移住センター玄関)



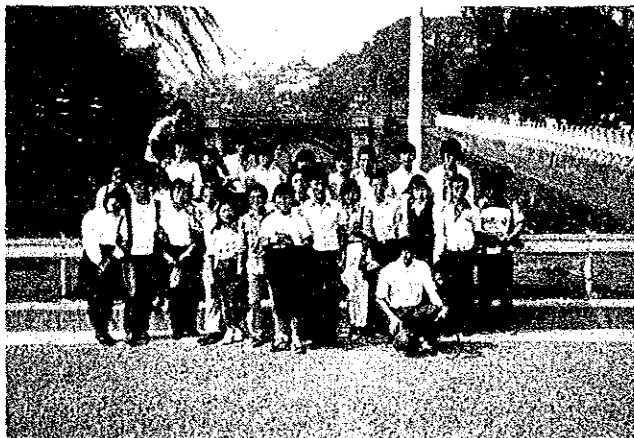


合同懇談会

(昭和58年4月 海外移住センター)



日本語研修
(58年4月 海外移住センター)



東京見物 皇居前
(58年10月)



中禪寺
(58年10月)



東照宮
(58年10月)



松島海岸
(59年8月)



中尊寺
(59年8月)



田沢湖
(59年8月)



十和田湖
(59年8月)



十和田湖
(59年8月)



男鹿半島入道崎
(59年8月)



男鹿半島入道崎
(59年8月)



発荷峠展望台 (秋田)
(59年8月)



東照宮
(59年10月)



日光 研修旅行
(59年10月)



合同研修会
(59年9月 海外移住センター)



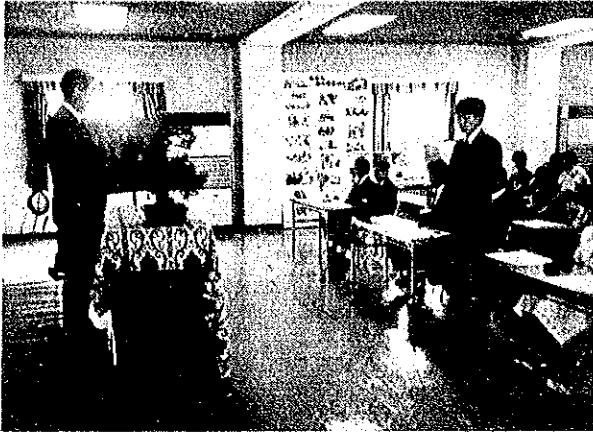
研修報告会
(59年9月 事業団本部)



日産自動車追浜工場見学
日産ショールーム前
(59年9月)



ボーリング大会
(磯子ミリオンボール)



研修修了式
(59年9月 海外移住センター)



第14回生 6カ月コース研修修了者一同
(左から 山口、山田、大貫、木村の
名研修生)

目 次

まえがき

| | | | |
|------------------------------|---------|---------------|----|
| 研修総括報告書 (第13回生) | | | 1 |
| 井口 克博 | ブラジル | サント・アントニオ | 1 |
| 永野 則武 | 〃 | ヴィアモン | 4 |
| 石井 益雄 | 〃 | バイヤ | 7 |
| 平田百合子 | 〃 | サン・ミゲル・アルカンジョ | 9 |
| 関山 恵子 | 〃 | サルト | 12 |
| 野村 謙二 | 〃 | リオ・デ・ジャネイロ | 16 |
| 宮下 彰 | 〃 | ミナス・ジェライス | 20 |
| 鈴木なな江 | 〃 | マナオス | 22 |
| 四元 マリア・セレージャ | 〃 | マラニオン | 26 |
| 気仙 雅光 | 〃 | サンタレン | 28 |
| 玉腰 活信ジョン | 〃 | ジャカレイ | 30 |
| 佐藤 裕一ペドロ | 〃 | モジ・ダヌ・クルーゼ | 32 |
| 小椋 猛 | パラグアイ | フラム | 35 |
| 高橋 幸夫 | 〃 | アルト・バラナ | 38 |
| 松尾やよい | 〃 | フラム | 39 |
| 桜井真紀子 | 〃 | アマンバイ | 42 |
| 斉藤 寿子 | 〃 | イグアス | 44 |
| 宮園 文雄 | ボリヴィア | サンファン | 48 |
| 親川メリ子 | 〃 | オキナワ | 53 |
| 近藤 豊 | 〃 | サンファン | 55 |
| 伊敷 勉 | 〃 | オキナワ | 57 |
| 嘉味田 ホセ | アルゼンティン | ブエノス・アイレス | 60 |
| 曾根 睦 | ドミニカ | サント・ドミンゴ | 63 |
| 森岡 正行 | ペルー | リマ | 66 |
| 東恩納マリア・エレナ | 〃 | リマ | 68 |
| 研修総括報告書 (第14回生 6カ月コース) | | | 71 |
| 山田 紀行 | アルゼンティン | ガルアペー | 71 |
| 大貫 光春 | ブラジル | トメアスー | 73 |

| | | | |
|------------|-------|-------|-----|
| 木村マリオ | ブラジル | バストス | 76 |
| 山口 晃 | ボリヴィア | サンファン | 79 |
| 日本の印象 | | | 83 |
| 親川メリ子 | | | 83 |
| 平田百合子 | | | 83 |
| 宮園 文雄 | | | 84 |
| 松尾やよい | | | 84 |
| 柗山めぐみ | | | 86 |
| 東恩納マリア・エレナ | | | 86 |
| 斎藤 寿子 | | | 87 |
| 近藤 豊 | | | 87 |
| 前期研修を終えて | | | 89 |
| 柗山めぐみ | | | 89 |
| 井口 克博 | | | 90 |
| 桜井真紀子 | | | 92 |
| 小椋 猛 | | | 93 |
| 斎藤 寿子 | | | 94 |
| 嘉味田 ホセ | | | 96 |
| 平田百合子 | | | 99 |
| 石井 益雄 | | | 100 |
| 関山 恵子 | | | 101 |
| 鈴木なな江 | | | 102 |
| 高橋 幸夫 | | | 103 |
| 永野 則武 | | | 104 |
| 松尾やよい | | | 105 |
| 親川メリ子 | | | 106 |
| 近藤 豊 | | | 107 |
| 野村 譲二 | | | 108 |
| 森岡 正行 | | | 109 |
| 伊敷 勉 | | | 110 |
| 東恩納マリア・エレナ | | | 111 |

| | |
|--------------------|-----|
| 玉腰 活信 | 112 |
| 宮下 彰 | 113 |
| 四元 マリア・セレージャ | 114 |
| 曾根 睦 | 115 |
| 子弟研修生名簿 | 117 |
| 子弟研修生一覧表 | 128 |

研 修 総 括 報 告 書

(第13回生)

| | |
|---------------|-----------------------|
| 井 口 克 博 | 高 橋 幸 夫 |
| 永 野 則 武 | 松 尾 や よ い |
| 石 井 益 雄 | 桜 井 真 紀 子 |
| 平 田 百 合 子 | 齊 藤 寿 子 |
| 関 山 恵 子 | 宮 園 文 雄 |
| 野 村 譲 二 | 親 川 メ リ 子 |
| 宮 下 彰 | 近 藤 豊 |
| 鈴 木 な な 江 | 伊 敷 勉 |
| 四元 マリア・セレージャ | 嘉 味 田 ホ セ |
| 気 仙 雅 光 | 曾 根 睦 |
| 玉 腰 活 信 ジョ ン | 森 岡 正 行 |
| 佐 藤 裕 一 ペ ド ロ | 東 恩 納 マ リ ア ・ エ レ ー ナ |
| 小 椋 猛 | |

研修総括報告書

井 口 克 博 (ブラジル サント・アントニオ)



1. 研修機関 (1) 前期 福岡県農業総合試験場園芸研究所
(2) 後期 岡山県岡山市富原 1090-5 近藤昇ブドウ園
2. 研修期間 昭和58年4月～昭和59年9月
3. 研修職種 果樹栽培技術

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

私は国際協力事業団の第13回子弟研修生として果樹栽培の勉強に来ました。目的は日本の進んだ技術と農業の初歩である基礎勉強のためです (薬剤混合、薬剤濃度、肥料、剪定、接木、樹木診断)、また日本から見るブラジルはどの様なものなのか知りたかったこと、親類の方達に会うこと、そして私の生れた国、両親の故郷である日本に友達が欲かったからです。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

前期 (58. 4～59. 3) -福岡県農業総合試験場園芸研究所果樹部で実習しました。初めての日本での生活は不安と喜びの毎日でした。日本語に不自由はしませんでした。がやっぱり方言にはなやまされました。

4月から始まった研修実習、南米とは逆の季節ですから、気分的に変でしたが、草木は春と共に芽を出すのは、同じでした。園の管理作業を初めとして私の新しい生活が始まりました。果樹栽培に取りくむのは初めてで皆と一緒に作業をする時、不利な点も有りましたが園芸部の先生、おばちゃん達のあたたかい指導で実習も楽しく過しました。実習内容としては新梢の誘引から始まりました。特に棚栽培の果樹 (ブドウ、キウイ、フルーツ、なし) の新梢は必ず誘引し、又他の果樹 (リンゴ、もも、カキ、梅) でも必要に応じて支柱をそえて誘引します。一番の目的は樹木の形作りと露地栽培には雨、風の被害を防ぐためです。他の作業としてはかん水、薬剤散布 (病害虫防除)、また春肥散布が終り果実管理では摘果、摘粒、袋かけなどの作業です。これらの一つ一つが研究データとなるのでよく観察し管理法を変えたり薬や肥料の濃度を変えたりして一年間樹木の研究をしました。

研究所では園の他に数ヶ所の農家でも現地研究調査をしていて、私達は時おり



一緒に調査に行き変わった栽培方式、技術を学ぶ事が出来ました。

梅雨期も過ぎて早い果実は収穫期に入りました。この時期一番大変なのは鳥の被害です。特にガラスです。毎日防鳥ネットを張ったり、超音波装置を取り付けたりでした。収穫した果実も糖度、酸度、貯蔵試験などの多くの調査をしました。栽培方式を変えたり管理作業を変える事で出来た果実の味や貯蔵期間が変わるため大切な試験調査です。

秋からの管理作業は来年度の樹木育生のためにもっとも大事な作業です。秋肥から園の整備、整枝剪定、病害虫防除接木と秋から冬の作業も多く有りました。

後期(59. 4~9) -岡山市のブドウ農家で実習しました。目的は白ブドウ(マスカット・オブ・アレキサンドリア)の勉強をしてみたかったからこちらへ来ました。アレキの栽培は露地では作れないためハウスで栽培してます多くはガラス室です。又一部の地方ではビニールハウスで栽培している所も有ります。管理作業としては試験場と変わりませんが作った品物を確実に売らなければ生活に影響が有るため真剣に取りくむ日本の農家の姿を見る事が出来てよかったです。

近藤農園には加温栽培と無加温栽培のふたつの方式が有り早い分には7月1日から収穫しました。8月下旬には終り9月からは無加温の分が収穫さえます。又アレキはこちら岡山県特産でも有り、収穫から選別、出荷まででいねいに作り上げるブドウはさすがにすばらしいものでした。試験場と農家で学んだ事は想像以上の事を得る事が出来て私には最高の研修となりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初の頃は日本の生活に慣れるのに大変で、農業の勉強处ではない有様でした。2~3ヶ月過ぎた頃から少しは思い通りに実習生活もわかる様になり、試験場で一年間学んだ事は希望以上の事が出来て満足してます。又、後期の農家研修は前期の復習となる部分が有り、私には大変良かったと思います。その他には、試験場では学べない事も指導してもらい、日本の農業を知る事が出来ました。最後に残念な事は果樹だけではなく野菜や花栽培も勉強して見たかったですね。

7. 合同研修会について

何ヶ月に一度の合同研修会は日本での生活の中で一つの楽しみでした。私達27名が一語になるのは研修中に4回だけです。同じ南米から来た仲間達の話は自分の住んで居る所以外の事を少しでも知るひとつのチャンスでも有ります。又研修旅行も皆と一語に見学する味は一段と日本がすばらしく思えました。それぞれ、帰国するわけですが何時か何処かで会える日を楽しみにしてます。

Good bye 兄弟達

8. 本邦での生活状況

前期は福岡県農業大学校の寮で生活しました。ブラジル研修生4人で御世話になり(12回生麻生君磯田君と13回生野村君)、日本での初めての生活の中で話し会える仲間がいた事は大変心強かった。寮では大学生と同じ生活をして試験場へ毎日通いました。大学生達と友達になれた事は本当にうれしかった。スポーツ大会や野球部の練習に参加させていただいたり、一緒に食事し日本-ブラジルの



事を話しあったり最高の思い出が出来ました。研究所でも先生方やパートのおばちゃん、同じ実習生仲間、皆親切に御指導して下さい何不自由なく研修が出来た事を感謝します。

冬には生まれて初めて雪を見ました。友達と熊本県阿蘇山へスキーに行き本当にうれしい体験が出来ました。

後期は農家生活で、他人の家で生活するのは初めてな私は不安でしたが、こちらの

方達によくしてもらい、今では自分の家の様に甘えさせてもらいました。

日本でお金の心配は有りませんでした。事業団からもらう分で十分足りましたし、病気やケガもなく本当によかったと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私達13回生から27名となり1ヶ月の日本語研修も出来る様になり、本当によかったと思います。研修制度としては最高だと思います。新しく来る研修生達、せっかく日本に来るんだから日本語、日本語をしっかりと覚えて来て下さい、外国（日本以外）でこれを学ぶ事は大変です。また言葉や字を知る事によって日本のすばらしさやおもしろさがわかると思います。18ヶ月の研修期間は終わると短く感じます、より良い研修結果を出すには日本を知る事だと思います、後は研修制度を守り事故のない生活を楽しんで下さい。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本に来て一番に私が感じた事は道路が非常に狭い事でした。一台しか通れない道でも両側通行ですから大変です。又車の左側通行には困りました、初めの頃はバスを待つのに逆側で待っていた事も多く有りました。初めて電車に乗ったのは横浜に来て2日目です。長野県の親類が会いに来て下さって一緒に横浜の港へ行きました。駅でキップを自動販売機で買い、さらにおつりまで正確に出ってくるのにはおどろきました。今の日本は何処に行くにも電車やバスが多く有り、自動機械が有って非常に便利です。

18ヶ月間で日本の季節を体験できた事も良い思い出だと思います。中でも秋が一番よかったです。山の紅葉はブラジルでは見た事のない美しさでした。

帰国後は日本で学んだ事を十分生かして果樹、野菜栽培に取り組みたいと思います。今、私自身は日本で学んだ事をどれだけブラジルで役に立てる事が出来るのかわかりませんが、基礎技術を勉強出来たことにより、今までとは変わった農業も見えて来る様になりました。私の一番の目的は作った物の生産安定です。また自分の技術に自信が持てる様になりましたら現地の若者達への指導もして行

きたいと思います。

18ヶ月間日本の皆さんと過ごした研修生活は本当に楽しかった。福岡県農業総合試験場園芸部の先生方、おばちゃん達、一諸に実習した仲間、岡山市の近藤一家の皆さん、近所の方々、福岡県農業大学校の皆様、旅先で御世話になった方達本当に有りかとうございました。最後になりましたが国際協力事業団の皆様の御蔭様で、よい研修、良い思い出など一生忘れられない期間を作る事が出来たことを心から感謝させていただきます。本当に有りかとうございました。

それでは日本の皆様御元気で、また会える日を楽しみにしています。 さようなら。

Até logo amigos do Japão, Felicidade até o proximo encontro.



永野 則 武 (ブラジル ヴィアモン)

- | | |
|---------|--|
| 1. 研修機関 | (1) 前期 熊本県農業試験場園芸支場 (2) 後期 熊本県果樹試験場 |
| 2. 研修期間 | 昭和58年4月～昭和59年9月 |
| 3. 研修職種 | 野菜、果樹栽培技術 |

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

日本での野菜、果樹栽培の現状

野菜、果樹栽培の土作りから収穫まで日本の栽培技術 (土肥料、土壤消毒、薬剤散布、育種、収穫法など) を学び、その知識を生かし病気と害虫に強い品種を作るために実習を行いたい。

両親の故郷をこの目で見て知るのもテーマの一つでした。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

前期は、熊本県農業試験場園芸支場で一年間野菜栽培技術の研修を行ないました。

私が農場に入った時はトマト、スイカ、キュウリの収穫が始まっていました。仕事の内容は果実を収穫した後糖度や酸度、重量などの調査を行いました。この作業を毎日行っているうちに各品種の特性を知る事ができました。そのあい間に薬剤散布や土壤消毒、除草剤などを実習しました。薬剤散布の方法や技術は、ブラジルとあまり変わりありませんでしたが、土壤消毒は生まれて初めての体験だったのでとっても興味があり、又勉強になりうれしく思いました。

6月には前年度の収穫が終り、新年度の植付けを行いました。主にスイカ、メロン、トマト、キュウリを植付けました。収穫に至るまでには種まき、接木、定植、施肥、薬剤散布、人工受粉など数々の作業を行って収穫する事を知りました。その多くの作業を体験できたのもよい経験になりました。

園芸支場において、一年間の中では県内又は県外の優良農家や試験場の視察に行く事ができました。

それに、北九州の市場、肥料工場や熊本
のイセキ工場も見学する事ができました。

後期は熊本県果樹試験場で残る半年間
(59. 4～9月)を研修しました。

試験場では落葉果樹、常緑果樹、病害
虫、育種、化学の各部においてそれぞ
れの研修を行いました。落葉部ではナシの
摘花、摘らい、ブドウ、キウイフルーツ
の生育調査や、もも、すもも、うめ、ブ
ドウ、ナシなどの収穫などをしました。常



緑部では温州ミカン、ネーブル、甘夏ミカンの高接木除草剤散布などができました。育種部では甘夏ミカン、早生温州、青島、温州、滑月、ネーブル、ライムなどの人工受粉をしました。病虫害部では、クリタマバチのゴール調査やミカンのヤノネカイガラムシ形態別寄生消長調査をしました。化学部ではミカンのダニ、かいよう虫、高接木のエカキ虫の防除する事ができました。最後は静岡県興津支場、東京市場、山梨県果樹試験場、果実連ジュース工場、サントリー工場などを見学して回り、一年半の研修をしめくくる事ができました。

ふり返えてみると長い様でもあり、また短かかった様でもある日本での生活でしたが、私にとってたいへん勉強になった一年半でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

私の日本での研修目的は日本の狭い土地でいかにして毎回作物を作り、土壌消毒や薬剤散布をしたりしているのかを知り、ブラジルにその技術を持ち帰りたいというのが目的でした。

計画通り日本の技術はあるていど身に付ける事はできましたが、広い土地のブラジルではあまり活用できない様な気がしました。

果樹試験場では6ヶ月間という短い期間でしたので収穫の体験は出来ましたが、剪定などが出来なかったのがとても残念でした。

両親の故郷を見ると言う計画は計画以上にいろいろと知る事が出きたので大変うれしく思います。

7. 合同研修会について

私は熊本県で果樹、野菜を学んでいたが一緒に来日した研究生達がどんな事をやっていたかわからなかった。

しかし、合同研修会によってほかの人達がどんな事をやって頑張っているかがわかり、いろいろ、それぞれの苦労話を語り合い、とても良い経験になりました。それに日本の文化をみんなと学び、日光、東北地方の観光地を一緒に行ったり、私の人生の1ページとなつてのこることでしょう。

8. 本邦での生活状況

1年半にわたる日本での生活は私の23年の人生の中で最高の体験、又思い出を作る事ができました。園芸試験場に入場した当時は友達もあまりなくて、1日がととても長く感じてさみしかった事を思い出します。

しかし、日がたつに連れて友達も増えて毎日がとても楽しくなり、仕事が終わったあとではサッカー、ソフトボール、バレーボールなどのスポーツを楽しんだり、土、日曜日は県内の留学生や研修生達と観光地を見学したりして、とても楽しい毎日を送る事が出来ました。

熊本ユネスコ協会のキャンプに行った事、弁論大会に出場した事、果樹試験場でソフトボールチームを作って、町の大会に出場した事など、文章には書ききれないほどの思い出がたくさん出来ました、それと言うのも日本の皆さんが私にほんとうに親身になって親切にしてくださったからです。

日本の皆さんに心からお礼を言いたいと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の研修生に私の考えを言うとすれば自分の経験から、日本に着いてから1ヶ月ぐらいは日本の生活習慣や、日本語、友人関係などで、とても苦労した事を思い出します、しかし、それを越えると友達もたくさんできて日本という国に慣れてきて、自分の生まれ育った国の様な気がしました。とにかく日本はすばらしい国でいい人ばかりなのであまり心配なくともいいと思います。毎日を明るく楽しく生活してほしいと思います。事業団に対しての要望はこれといってありません。



10. 所感（帰国後の抱負を含めて）

私は幼い時から父、母から郷里話をいつも聞かされて、いつの日か日本に来る夢を心の底にいだいてました。その夢は、昭和58年4月に実現する事が出来ました。第13回移住者子弟技術研修生として日本の野菜、果樹栽培を勉強に来る事が出来ました。

日本の事はあまり知らずにもかも反対、すべて自動化しコンピュータ式で私はこんな所で生活していけるかどうか不安になりました。でも最初にはいった下宿の人たちに息子のようにかわいがってもらって、なに不自由なく1日1日、くらす事が出来ました。その下宿から毎日園芸試験場にかよいました。

試験場ではいろいろと感心する事がたくさんあった。それはハウスの事でブラジルでは考えられない装置がそなえてあったことです。それは開閉の自動式、温度の自動調節であった。そんな設備

の中で仕事をして初めは、なにをしたらいいのかわかりませんでした。しかし指導してくれる先生達がとても親切でしたので毎日の仕事が楽しくなりました。そんな中で1年間野菜の事を学んできました。残りの半年は果樹試験場で果樹栽培を勉強する事にし、ここでは手作業が多くて身近に体験することができました。

1年間YMCAで毎週土曜日日本語の勉強に行く事が出来て、いろいろな日本の行事にも参加することが出来ました。又日本の文化、漢字の書き方、読み方を学んでとても勉強になりました。

ブラジルには多くの日系人が住んでいるけれど、今は三世、四世の時代で日本の印象がうすれつつある中で、私は自分で体験した事を1人の日系人として、日本の伝統を伝えるという事が日本とブラジルの友好の第1歩だと思い、日本での思い出をもち帰りたいと思います。又日本で学んだ野菜と果樹の栽培技術をもって帰りブラジルの広い土地を使って日本の農業に負けられないようにがんばりたいと思います。

最後に、両親の故郷で研修が出来たということは私の人生で一生の思い出になると思います。国際協力事業団の皆様から感謝と御礼を申し上げます。

「日本の皆様一年半本当にありがとうございました。」

石 井 益 雄 (ブラジル バイヤ)



1. 研修機関 (1) 前期 横河北辰電機(株)機器事業部・工計製造部
工計生産技術室
(2) 後期 三菱化成工業(株)黒崎工場
施設部電計技術室

2. 研修期間 1983年4月～1984年9月

3. 研修職種 計装保全技術、制御理論

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

石油ショック後、ラテンアメリカの国々はインフレ、貿易摩擦などの影響を受け、私の愛国ブラジルでは直接生産に当たる人々、技術者、エンジニアを中心に生産を高める事に注目しており、私は物理系なのでその理論を生かした計装について勉強したいというのが当初の研修計画でした。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

私の研修内容は計装です。計装とはプラント、機器内で求められる物理量である圧力、流量、電圧、電流、温度、PH、などを制御理論に当てはめ機器、プラントを制御し正常に運転を行う。

前期研修の4月から9月までは横河北辰電機(株)機器事業部で約15種類の測定器の総合調整トラブルシューティング、この内で最も難しいCPU内蔵のデータベースでした、ユーコンコンピュータ、

制御工学の講座に参加物理量の基準を監視しているスタンダードラボラトリ見学。

10月～3月は、工計製造、生産技術室、工計製造部では工業用計器の総合調整トラブルシューティング、O.C活動に参加しました。第

2回知識工学シンポジウム(社)計測自動制御学会に参加。生産技術室では、UNIAアンプの温度特性の実験、O.C活動に参加。空気式計器の部品の実験を行い修正後製品化することが出来ました。

後期研修の4月～9月は三菱化成工業(株)黒崎工場電計技術室で化学工業用の一般的計器、計器ループのフロー"MTTC"メンテナンストレーニングセンター講座、

"BM"ブレイクダウンメンテナン参加、シケンス、コントロラのプログラム、工事作成、制御理論、多変数制御系の設計。最適制御LO、LOIのチェックセンタムコンピュータのグラフィック画面作成、センタムビルドメンテナン、シケンスの勉強などを行ないました。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画としては、計装保全だったのですが、後期研修の三菱化成黒崎工場の計装技術は日本でもトップレベルであり、その中で会得出来た現代制御理論、制御用センタムコンピュータなど々最先端技術に接したことは私にとって良い経験となりました。

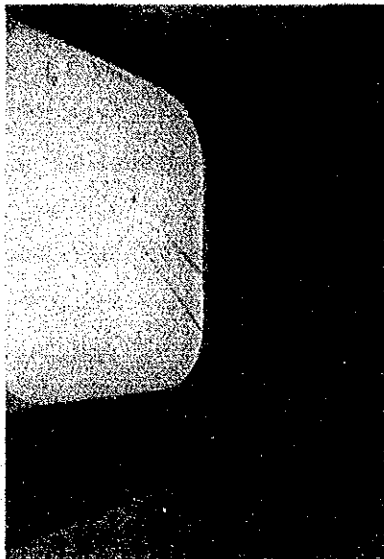
7. 合同研修会について

研修期間中5回の合同研修会が行なわれ、なれない日本での生活および研修についての問題点などについて国際協力事業団研修担当者及び先輩達の体験にもとづいた適切なアドバイスを得る事が出来参考になりましたが、研修期間中に研修継続について問題がある場合があり、研修を中断することは望ましくないので、研修生にとって、無駄な時間が発生する可能性もあるようです。合同研修旅行では、日本の観光地、名所、史跡、旧跡など見学させてもらい、とくに心に残ったのは古い歴史、文化、建設、当時の食生活、自然といったものを大切にしている事です。

8. 本邦での生活状況

日本は着く前までは文化の違いや個人主義から集団主義に移り変わる事は大変だと思っていましたが、思ったよりインパクトは少なく、又、東京ではアパート生活だったので食事はインスタント的な物が多く健康的ではありませんでしたが、健康保険証(研修員の診療に関する証明書)を預いていたので安心感がありました。又、初めての銭湯の番台は若い女性でしたのでびっくりしましたけれど、これも文化の違いと思っています。

日本では厳しい季節温度の変化、地震、台風など体験し日本人の日常生活について知ることがで



きました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修内容は希望どおりできるように、また本人にプラスになるかを良く考慮していただき、技術系の研修生は英語などもマスターすることが必要かと思えます。

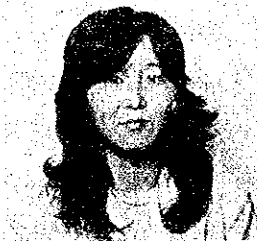
10. 所感（帰国後の抱負を含め）

18ヶ月の研修期間は6シーズンをサイクル的にかえ研修場所の移動などであったという間に終わってしまったような気がいたします。それは研修内容がバラティだった事と最先端技術に触れた事と思っています。

帰国後の計画、希望としては、ブラジル日系人は二世、三世の世代なのでもっとブラジル社会の内に入り活躍出来るような協力員になることが望みです。私と

してはポロベトロキミカル・デ・カマサリ社で、これまで日本で得た計装技術と物理理論を組み合わせ役立てさせてもらおうことです。

平 田 百合子（ブラジル サン・ミケル・アルカジョ）



1. 研修機関 静岡県国際農友会

(1) 前期 静岡市 分農園 5～7月

裾野市 忠ちゃん牧場 8～9月

(2) 後期 三ヶ日町 SATO RANCHO 10～12月

掛川市 山果農園 1～6月

長泉町 長田園芸 7～8月

2. 研修期間 1983年5月～1984年8月

3. 研修職種 果樹と農業経営

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

ブラジルでは、ブドウ、リンゴ栽培をやっておりますので農業じたいに大変興味を持ってJICAの研修生として日本の集約的農業を学びたいとの計画でした。それから祖父母の故郷である日本の社会、廻りに、全々日本語を知らない日系の若者達に少しでも日本語を教え、少しでも祖国である日本を理解してもらおうことも一つの計画でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

私はブラジル国際農友会の推せんで静岡県国際農友会員の農場で一年四ヶ月間研修を行った。

(1) ハウス内で栽培しているネクタリンについて

ネクタリンの摘果、袋掛け、消毒、夏の剪定、出荷について、選別、選果について、ブラジルでは考えられないほど丁寧にし、びっくりしました。

(2) みかんについて（早生みかん、中生みかん、青島みかん、ネーブル）

みかんの摘果、消毒、秋には青島みかとネーブルに摘心をやりました。又、秋から冬に掛けて出荷方法も経験することが出来ました。冬に剪定をやりました。

(3) キウイ フルーツについて

ブラジルでも研究中のキウイ、帰国後自分で栽培したい農作物の一つです。

キウイについて学んだことは、冬の剪定、この剪定が一番大事な作業です。

そのため、一番難しくて、時には泣きながら指導を受けました。熱心に教えてくださる農家の人。枝の止め方、

排水、土作り、枝の管理、摘心、摘蕾、摘花、人工交配、摘果、袋掛け、消毒、

キウイの出荷をするにあたり選別、選果の段階ですごく丁寧にしかも等級別をととても厳しくするのにびっくりしました。これはブラジルに持ち帰りやってみる出荷方法です。日本でも新しい果物として、病気や栽培方法を研究しているグループの仲間に入れてもらい、いつも参加させていただきました。



(4) 酪農について、とても短い期間でしたがいろいろ親切に教えていただきました。牛乳、肉牛、子牛とそれぞれにエサの与え方、ブラジルでは全々経験ない事ばかりで大変勉強になりました。

(5) 園芸の基礎を身につける事が出来ました。年間に25万鉢を出荷する農家です。その中でも中心に栽培しているのが冬に出荷するシクラメンです。シクラメンの鉢上げを行い、シクラメンについては土作りが第一で土の消毒、かん水、管理、草花の定植や挿し木を行いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

この一年半を振り返って見ると時の流れがとても早く感じさせます。当初の研修計画を思い出して実際の研修を比較して見ると、思っていたよりも良い研修が出来たと思います。これもJICAの皆さんを初め、国際農友会、静岡県国際農友会のおかげで無事終わることが出来、本当に心から感謝しています。

7. 合同研修会について

私達は、家族や友人とはなれ、日本に研修に来て、日本で知り合った仲間達、本当の兄弟の様に一諸に楽しんだり、悩みを分けあったりするようになりました。合同研修会の通知が来るのを指で数える様にして待った時もありました。そして皆んなと顔を合わせるのが一番の楽しみでした。

研修旅行について、83年の秋は日光でした。少し日本の歴史を知る事が出来ました。今年の夏は東北方面でした。また一つ思い出が出来ました。

8. 本邦での生活状況

一言ではなんとも言えません。というのは、自分は何回か移動しました。でも、どこへ行っても本当の家族の一員として可愛がってもらいました。

休みは回りを案内してもらい、又いろいろな人達に紹介してもらい、友達が出来ました。一番初めの頃は日本語がすらすらと出来なくて何かと困りましたが、日が立つにつれて少しずつなれました。

食物には、全々困りませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからの研修生は三世、四世が多くなると思います。出来ればもっともっと日本との交流を深めてほしいと思います。なぜならば一世の方達がいなくなりだんだん日本が、遠くなって行きます。そのために出来るだけ多くの人達に、祖国日本を一度自分の目で見ていただくのが大事だとも思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

58年4月4日、日本へ無事に着きました。まだ、ブラジルの冬の様に冷たい風、桜のつぼみがふくらみはじめていました。海外移住センターで一ヶ月間、ぐらいの日本語の講習を受けました。とっても良い先生方達にめぐり逢えて本当に良かったです。5月10日、それぞれ研修先に行き、又5ヶ月ぶりに会える日を楽しみにして別れます。私は、静岡県国際農友会にお世話になる様になりました。初めての日本の家庭に入る事ができ、物の見方、考え方、少し日本人を知る事が出来ました。私、日系三世と、全く考え方のちがいもありました。休みの日は必ず、農家の人が回りを案内してくれました。

8月は、全国4日クラブの集いに参加させていただきました。そこでは、日本全国の青年達と交流し、その中から友達も沢山できました。10月は、石川県で全国青年技術交歓大会に参加し、日



本海の方の良さときびしさが、ミックスしているように思えました。

日本での初めてのお正月、本格的なお正月でした。冬の中で過ごせるお正月、生まれて初めてです。熊本県で過ごしました。いろんな所へ案内してもらい良き思い出が沢山できました。

< 日本の印象 >

ブラジルとくらべ本当に平和な国、日本、でも日本人はそのありがたさを、あまり感じていない様に思います。豊かさがとてもあたりまえだと考えている様です。私達から見るとブラジルは、貧乏の差が激しいために治安など非常に悪いと思います。とくにビックリした事は、平野さんのお宅では、無人販売を道路ぞいで、みかん、キウイ、シイタケなど販売しているが、毎日良く売れるし、ほとんどの日が正確にお金が入っています。まちがっていても5%以内という事でまったく感心しています。

私達13回生から始まった特別研修。本当に短かな時間で残念でした。でもプログラムはびっちりでしたし、又、先生方達も一生懸命で何とか身に付ける事ができました。これからもこの研修を続けてほしいものです。

山梨県に三度ほど見学に行き、ブドウ栽培を30年やっている人からいろいろと聞き勉強になりました。また勉強になった点はどんな作物でもできる栽培管理を出来るだけやり、せまい面積から高い生産性を追求する集約農業には感心されました。

そしてこれから自分の将来に対して最高の勉強になると思います。

事業団の皆様を初め、国際農友会の皆様、静岡県国際農友会の皆様そして、私の研修を心から受けて下さった農家の皆様に心から感謝しています。本当に有りがとうございました。



関 山 恵 子 (ブラジル サルト)



1. 研修機関 (1) 前期 神奈川県総合リハビリテーションセンター
(1983年5月～1984年3月)
① 理学療法科
② 東洋医学科

(2) 後期 医療法人木村病院 (1984年4月～9月)

理学療法科

2. 研修期間 1983年4月～1984年9月

3. 研修職種 理学療法および東洋医学 (針・灸)

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

(1) 外国の理学療法知識, 情報の修得

(2) 東洋医学治療方法の修得

(3) 痛みに対する論理及び治療の修得

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

(1) 期間 1983年4月～5月初め

場所 海外移住センター (横浜市)

内容 日本語, 日本文化, 地理, 歴史などを学ぶ

(2) 期間 1983年5月～1984年3月

場所 神奈川県総合リハビリテーションセンター (厚木市)

内容 東洋医学と理学療法

① 東洋医学 およそ6ヶ月にわたって

- ・中国医学の中の針灸の講習会で針灸の基礎及び実技。
- ・東洋医学科で見学及び臨床での評価, 治療原則, 手技の修得。

成果: 東洋医学は西洋医学の考え方とまったく違うため理解することはむずかしく, 技術を修得するため期間が短かったと思う。

② 理学療法は初め2ヶ月と最後の3ヶ月にわたって

- ・日本及び外国の理学療法の情報の修得。
- ・理学療法の中のボバース法の手技, 考え方について患者さんを担当しながら先生に指導してもらった。
- ・評価, 治療法, 医療機器について, 見学, 症例検討会, 抄読会, 勉強会, いろんなカンファレンス, 講演会, 理学療法士学会, リハビリテーション医学会などに参加。

成果: 外国と日本の理学療法士とリハビリテーションセンターでの理学療法士の活動状況を知ることが出来た。

(3) 期間 1984年4月～9月

場所 医療法人 木村病院 (名古屋市)

内容 理学療法の一部である筋骨格系傷害の治療法

- ① 日本整形徒手療法研究会のセミナーを受講して理論手技などの勉強をした。
- ② 理学療法科で主に評価, 治療, 治療の検討などを学習した。

※今後日本整形徒手療法研究会セミナーが終了する、今年11月まで研修を続ける予定である。

成果：ブラジルであまり知られていない治療法であるので、今後とても役に立つ勉強になったと思う。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

● 東洋医学の針灸の理論は講習会で修得出来たが、実技期間が少なかったため思ったより学習は出来なかった。

- 理学療法では予想したより日本独得の治療方法はないと思う。思っていたより日本と多くの外国の情報を得ることが出来た。
- 痛み及び筋骨格系傷害の治療法について思っていた以上に勉強が出来た。
※全体的に思っていたより恵まれた環境で研修が出来たと思う。

7. 合同研修会について

合同研修会は、私にとって楽しい思い出となり、いろいろの会話、悩み事、相談事について話し合う機会となった。兄弟一友達とスペイン語やポルトガル語で話が出来るストレス解消も出来たと思う。そして、研修旅行では日本を多く知る事が出来た。

これらの合同研修会が行われることはとても良いことだと思う。

8. 本邦での生活状況

一年半の研修生活で良いこと、困ったこと、たくさんあった。

最初、不安だったのは「食事はどうか、病氣やけがの時どうすればいいのか」ということでしたが、食事は早くから慣れ、大きな病氣にはかからなかった。しかし何度か風邪をひき研修先の病院で見もらった。

研修期間中ほとんど、寮生活で、いろんな人と出会い、住居、交通にかんしてとくに問題なく、経済的にもそれほど不自由なく過ごす事が出来た。

前期では親せきのかた達と会う事が出来、後期では近くにある、名古屋国際研修センターにいる多くの国の研修生とふれ合うことが出来とても良い体験をすることが出来た。

そして、思い浮ぶことは海、雪、友達、先生、親せき、デパート、パーティそして駅の多いこと……。私にとって、ずいぶんと恵れた生活であったと思う。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- 一人でも多くの日系人にこの機会を与えてほしい。

- 日本語の研修を必要な人や勉強したい人に続けて行ってほしい。
- 国を出る前に少しでも多く研修先の情報を得ることが出来たら良いと思う。
- 支部での研修担当者が代わる場合、研修担当者同志で研修生の状況を伝えおいてほしい。
- 研修先、研修担当者、研修生それぞれの情報交換の場が必要であると思う。



10. 所感（帰国後の抱負を含め）

両親はおよそ29年前にブラジルへわたり、私はブラジルで生れ、初めて日本を訪れたのは昨年の春4月であった。

海外移住センターで1ヶ月間研修を受け初めての環境文化など、目新しいことばかりであった。

その後、研修生はそれぞれの研修地へ向い私もいろいろな不安を抱きながら研修先へ向かった。初めの挨拶から始まり、専門語は全くわからず会議、先生との話し合い、学会などはまるで別の世界のようにであった。

月日がたつにしたがって、だんだん見当がつくようになり、自分の専門は辞書で見た「ブツリ療法」ではなく理学療法ということがわかりました。それほど、ブラジルとちがう特別な治療法は、つかわれていないことがわかりました。

後期では、ブラジルの現在の医療にとってためになるまとまった勉強がしたい、と思い研修を続けた。

この一年半いろいろ楽しいことや、つらいことがあったが、時には日本語研修で覚えたことわざなどを思い出しながら自分を力づけた。また回りの人たちの協力により、いろいろ学ぶことが出来たと思う。

これから研修期間を少し延長し、その後ブラジルへ帰って今までの私の経験や修得したことを土台として

出来るだけ自分の経験を人々に伝え、治療に生かしていきたい。

最後になりましたが、この研修期間大へんお世話になったみなさま、神奈川県総合リハビリテーションセンター、医療法人木村病院、日本整形徒手療法研究会、そしてこの機会を与えて下さいました国際協力事業団に心から感謝を申し上げます。



野村 譲 二 (ブラジル リオ・デ・
ジャネイロ)



1. 研修機関 (1) 前期 福岡県農業総合試験場
(2) 後期 同上
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月
3. 研修職種 果樹及び野菜
4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

昭和58年4月～59年3月まで、かんきつ栽培技術について研修。昭和59年4月～59年9月まで野菜栽培について研修

私がこの研修に参加したのは、果樹と野菜栽培の研修、その他に日本語の勉強、両親の生れた国をよく知ることです。帰国後は、日本での体験や風土、習慣、文化などを多くの友達に伝えてあげることが私の当初の目的でした。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

私が研修をうけた福岡県農業総合試験場は、太宰府政庁の史跡に近く自然環境に恵まれた場所です。当試験場は、福岡県筑紫野市吉木、阿志岐にまたがる約162 haの敷地に管理部、企画調整室と経営環境、農産、園芸、畜産の4つの研究所からなり、全場では37研究室を配置しています。また本場構内には農業大学校と農業研究所も(農協中央会)あり、福岡県における農業の研究と教育の拠点となっているところです。私が研修を受けた園芸研究所は、常緑果樹部門と落葉果樹部門に分かれています。常緑果樹部門では、カンキツの良質安定生産を目的に試験研究が行なわれています。落葉果樹部門では、ぶどう、かき、なし、もも、キウイフルーツなどの品質向上、および省力安定生産栽培技術に取り組んでいます。私は、この果樹部で昭和58年4月から昭和59年3月まで、カンキツの栽培技術について次の研修をしました。

4月は、カンキツ類の接ぎ木や施肥について実習しました。5月は、ウイルス病や害虫の薬剤散布、圃場内の草刈、ハウスミカンのかん水やネーブルの落果調査について研修を受けました。6月から8月にかけては、5月と同じように薬剤散布、また先生や実習生達と福岡県内のミカン産地へ視察に行ったり、実習の農家現場で摘果剤(フィガロン)の試験も行って見ました。夏は、雨も多く降り、



福岡県農業総合試験場園芸
研究所における野菜栽培

除草剤散布や草刈りの実習もしました。8月から10月にかけては、早生温州の摘果、草刈り、また、カイヨウ病やウイルス病などの薬剤散布を行ないました。そして早生温州の収穫、肥料散布や果汁の分析（糖度、酸度など）も勉強しました。11月から2月にかけては、普通温州の収穫や圃場内の温度調査、とくに寒さを防ぐ方法について、又、週に1回果樹栽培について実習生達との合同の講義も受けました。

昭和59年4月から同年9月までの間、私は園芸研究所内の野菜部で研修をしました。野菜部では、福岡県の主な施設野菜であるきゅうり、トマト、なす、いちご等についての試験研究が行なわれています。

野菜部での研修内容について、私は、露地でのキュウリ栽培を中心として、種まきから接ぎ木や収穫までの観察や勉強をしました。又、キュウリの品種比較試験、温度調査やかん水方法について、さらにうどんこ病、さび病その他ウイルス病などの病気や害虫の薬剤散布方法の勉強もしました。その他には、ハウスもののトマトには畛耕栽培や促成栽培及びナスやメロンは栽培管理について研修を受けました。軟弱野菜については、レタスの品種比較試験をしましたし、ネギはかん水量や施肥の試験をしました。コマツナ、サントウナやシュンギクは種まき方法の勉強をしました。これらの野菜は、雨よけを目的としたハウス栽培ですので、夏場の温度調整やかん水などの十分な管理が必要でした。

以上が、果樹部及び野菜部でのおおまかな研修内容です。この一年半の研修成果は、一年を通じてのコンキツ類の栽培技術を身につけたことですが、中でも、果樹の接ぎ木の方法や剪定の方法、それに施肥の時期や量についての研修が大きな成果でした。又、野菜の研修からでもわかった事ですが、果樹でも野菜でも光、水、土壌、温度、肥料、何一つ欠けても立派な作物はできません。このように、作物の栽培及び農業経営の基礎的なことを学び得たことが私にとって最も大きな成果でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

前期は、園芸研究所の果樹部で果樹の先生の指導で常緑果樹の主にみかんについて研修しました。落葉果樹についても勉強する機会を与えてもらいました。

後期は、同じ園芸部にある野菜花き部の研究室に移り、野菜栽培技術に関しては全般にわたって実習しました。特にキュウリの栽培については、私にまかされましたので、大変勉強になり、自信ができました。

私は、養魚にも興味関心があったので、園芸研究所の先生の案内で水産試験場やテラピヤ養魚をしている所へつれて行ってもらって見学する機会を与えていただきました。希望通り研修させて下さり、とても良い勉強になりました。心から感謝しております。ありがとうございました。

7. 合同研修会について

私達研修生にとって合同研修会は最高の楽しみであり、良い思い出になりました。横浜にある海

外移住センターでは、4回合同研修が行なわれ、6ヶ月ぶりで先輩や仲間達と会い、皆日本の生活に馴れたのだろう、にこにこ顔、太った顔、様々でした。外国の沢山の友達と親しくなり、自分達の国のこと、日本の珍しいことについて、夜おそくまで話し合ったり、パーティをやったりよくさわぎました。

研修旅行も、有名な観光地（東京、日光、東北地方など）へ、つれていってもらいました。これらは私達にとって一生の思い出になると思います。本当にありがとうございました。

8. 本邦での生活状況

昭和58年4月から福岡県農業総合試験場で研修に入りましたが、12回生の磯田君、麻生君と同じ13回生の井口君とは試験場内にある福岡県農業大学の寮で、先輩とは半年間、井口君とは1年間寮生活を共にしました。私達はいつも会う機会があり、農業大学のソフトボール大会や運動会などに参加して良い思い出が残りました。日本は、どこへ行くにも便利な所ですが、私達の寮から町までバスで10分、自転車で20分くらいかけて土曜日の夜食や日曜日の食事、あるいは買物などには不便な所でした。寮の食事について私の口に合わなかったので大変苦労しました。いつもごはんはマヨネーズとショウユをかけて食べました。試験場では先生、おばちゃんや実習生達から大変親切にしてもらってとてもうれしかった。

休日は自由でしたので、福岡市のデパートや地下街で遊んだり、九州の留学生や研修生達とスキーへ行ったり、パーティを楽しんだり、あるいは博多どんたく（祭り）などに参加してきました。これらが、私の1年半の楽しい研修生活でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

(1) 移住者子弟技術研修生として来日す

るためには、事前に日本語を学習しておくことが必要と思います。私の場合、日本での生活には困りませんでした。日本の新聞を読めたら、もっと日本の社会を理解できたら、又、雑誌や専門の本を自由に読むことができたなら研修に役立ったと思います。

(2) 私は、子弟技術研修生として大変良い体験をしました。今後もこの制度が続きますように切に要望いたします。



10. 所感（帰国後の抱負を含め）

私は、ブラジルの普通高校を卒業して両親の手伝いをしていました。家では野菜と特に果樹栽培（グアバ）をしていました。私はあまり農業技術や農業経営などの経験が少ないため、何をやって

もむりでした。“農業経営を生かすためには、もっと勉強が必要だ”とあって、国際協力事業団、リオ・デ・ジャネイロ支部へ第13回移住者子弟技術研修生として応募して、昭和58年4月2日に、リオ・デ・ジャネイロ国際空港を出発して日本へ研修にやってきました。

4月4日、成田国際空港に到着。日本の第一印象は右を向いても左を向いても何と人が多いこと。さしづめブラジルのカーニバルのような状況でした。横浜にある海外移住センターへ行き、初めて先輩達と会って歓迎をしてもらいました。海外移住センターでは、3日間の合同研修会が行われ、日本の文化や歴史などについてオリエンテーション、又先輩達から日本で一年間の、生活についての体験、あるいは、アドバイスなどを与えてもらいました。それから三景園へ見学につれて行ってもらいました、そのとき初めて日本のきれいな庭園や桜の花を見る事ができたので、これが両親の生れた国かと思いました。4月7日、羽田空港から福岡空港へ着き、国際協力事業団、九州支部及び県庁、福岡県農業総合試験場と福岡県農業大学校に行きました。試験場では先生の案内で初めて見たビニールトンネル、ビニールハウス、ガラス温室とその中に育つ数々の作物がありました。果樹あり、花あり、そして野菜と多種多様。しかも温度のコントロールやかん水までが自動的に行なう施設ができてたので、びっくりしました。我が国では、土地が広く、気温も高いのでこうした施設を使って作物を自由自在に栽培する農業は見たくてもありませんでした。ここで、1年半の研修生活を送って日本の春、むし暑い夏、そしてすばらしい秋の紅葉と、きびしい冬のつらさも見て、季節ごとの良い思い出や体験ができました。又、日本の沢山の友達ができたことが大きな収穫でした。皆様のおかげで日本の有名な観光地を見学するチャンスがあり、日本の交通機関の発達している事と、その時間の正確なことにおどろきました。

私達13回生の夏季合同研修会は東北地方でしたので、それを機会に両親の故郷である北海道の深川市へも行ってきました。初めて会う親せきの人は、よく来てくれたと言って歓迎をしてくれました。そして沢山の観光地を案内してもらいました。北海道は道も畑も広々として私の国を思わず状況でした。

私は、日本へ来る前ブラジルの農業協同組合（COTIA）の青年クラブに参加していましたが、そのクラブ員の人達はきっと私の帰えりを楽しみにしてくれているので、帰国後は、スライドや写真などで日本のイメージ、又、学んだ体験などを多くの友達に伝えたいと思います。

将来の目標は日本で勉強した事を十分生かして果樹の栽培に一生懸命頑張りたいということです。

最後に日本の皆様、そして国際協力事業団の皆様1年半の研修を無事に終らせていただいて、本当にありがとうございました。



宮 下 彰 (ブラジル ミナス・ジェライス)

1. 研修機関 (1) 前期 秋田県果樹試験場 (落葉果樹リンゴ)
(2) 後期 愛媛県果樹試験場 (柿を中心とする落葉果樹全般)
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月

3. 研修職種 落葉果樹栽培

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

ブラジルでは、自分の家で野菜と落葉果樹 (リンゴ, 柿) の栽培をやっておりますので、日本では特にリンゴ, 柿を中心とした落葉果樹の栽培技術及び病害虫防除の技術を修得したいと思っておりました。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

私の研修はまず最初に海外移住センターで1ヶ月間、日本語、歴史、日本で生活していく上での必要な知識を学びました。

前期の研修は、秋田県果樹試験場で行ないました。リンゴの接木、摘果、病害虫防除、剪定、収穫、果実分析などをやる事によって基本的な栽培技術を学ぶ事ができました。

後期の研修は翌年4月から9月まで愛媛県果樹試験場で行ないました。ここでは、柿の剪定・接木・摘果・摘蕾・摘果・病害虫防除などを勉強しました。その他ナシの剪定・誘引・摘果・袋かけ・収穫・モモの摘果・袋かけ・病害虫防除・収穫、またキウイフルーツモモ・ピワなどの栽培技術も勉強しました。

このようにいろいろな果樹栽培に接する事が出来たので果樹に対する幅広い知識が得られて大変良かったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は、リンゴと柿の栽培を学ぶが目的で前期は秋田県果樹試験場、後期は愛媛県果樹試験場で研修を行ないました。

一年半の研修を終えて見ると、私が最初計画していた以上に果樹栽培の技術を修得できました。また、リンゴと柿以外の果樹についてもいろいろ学ぶ事ができ、うれしく思っています。



秋田県果樹試験場でのリンゴ分析
(硬度測定)

7. 合同研修会について

私にとって合同研修会は、在日中の楽しみの一つでした。それは母国語であるポルトガル語で話ができることでした。またみんなの話を通じて、日本の事をよりくわしく知る事ができたからです。

更に研修旅行では、日本の有名な景勝地や史跡を巡る事によって、日本の文化にふれる事ができました。特に日光のすばらしさは、今でも忘れる事ができません。

8. 本邦での生活状況

私は前期研修では、秋田県果樹試験場の寮で生活しました。この寮は試験場内にあったのでたいへん便利でした。また試験場の人達に親切にされてうれしかったです。秋田は私の故郷に較べると非常に寒く、また方言の為に言葉がわかりにくかったのですが、海外移住センターでの日本語研修が大いに役立ちました。一方、後期研修は、愛媛県果樹試験場でしたが、ここでは試験場に隣接している農業大学の寮で生活しました。ここでも、試験場の人達に親切にされうれしく思いました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の体験では、日本に来る前に日本語、特に漢字の勉強をする機会があればいいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

私が、両親の故郷である日本の土を踏んだのは昭和58年4月4日、ちょうど、桜の蕾もふくらんだ頃でした。着いたときは寒い所だと思いましたが、しばらくして桜の花も満開になり、日本は美しい国だなと感じました。それから現在までの1年半の間研修を行いました。今、振り返って見ると本当に短かったような気がします。しかしその間日本で体験したことを、私は一生忘れることがないでしょう。

日本では春の桜、夏には花火、秋は紅葉、そして冬には雪と私にとっては、どれもこれも生まれて初めて見るものばかりで、その美しさに感激しました。



研修では、試験場の先生方が親切に指導して下さい、私が思っていた以上に果樹の勉強ができました。また研修を通じて、多くの日本人の友達もでき、楽しく学ぶことができました。もう、日本を去らねばならないのかと思うと、とっても淋しいですが、ブラジルに帰ってからは、日本で学んだ知識・技術を活かして日本の果実に負けられないような立派な果実を実らせようと思います。そして、その技術をみんなに伝え広めたいと思っています。

最後にこのようなすばらしい機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、そして親切にして下さった日本の方々から感謝と御礼を申し上げます。「本当に、ありがとうございました。」。



鈴木 なな江アデーリア

(ブラジル マナオス)

1. 研修機関 (1) 前期 玉川学園幼稚園部, 玉川女子短期大学保育科, 玉川大学文学部芸術学科, 教育学科
外国語学科。

(2) 後期 同学園幼稚園部, 小学部, 短期大学幼児教育科, 文学部教育学科, 芸術学科

2. 研修期間 昭和58年4月～59年8月

3. 研修職種 幼児教育

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

テーマ 幼児教育

<研修内容> ブラジル・マナオスで初等教育の勉強をしていたので, 日本という優れた国での基礎教育を学びたいと思いました。幼児教育を主に教育自体の理解を深め, 日本の教育現状を見て, ブラジル人に日本の文化を伝えたいと思っていました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

玉川学園で1年半, 保育, 幼児教育及び教育について研修しました。

大学での前期研修期間(4月～7月)から後期(9月～3月)までの研修内容は玉川学園国際教育室で選択して頂きました。

前期研修内容は次のとおりです。

- 女子短期大学保育科。発達心理学, 造形Ⅰ・Ⅱ, 保育内容健康Ⅰ・Ⅱ, 保育内容音楽リズム。
- 女子短期大学研究生特別講義。心理学研究, 児童文化研究。
- 文学部芸術学科児童専修科。リトミック, 児童イラスト, 児童造形表現研究, レクリエーション指導法。
- 文学部教育学科, 児童演劇表現研究及実習。
- 文学部外国語学科, スペイン語Ⅱ。

夏期スクーリング。国語Ⅰ, 音楽リズム, 視聴覚教育, 体育実技Ⅰ・Ⅱ

後期研修。週1回の幼稚園部実習が入り, 造形Ⅰとレクリエーション指導法がめけました。

聴講生として授業を受けていたので試験及び補講期間中は幼稚園部で実習を行っていました。

59年度研修は私自身が国際教育室のアドバイスを受けて講義内容を選択しました。週1回の実習も幼稚園部から小学部に変えて頂きました。(4月より8月まで)。

- 女子短期大学。ピアノ実技。
- 文学部芸術学科児童専修科。児童表現教育総合演習Ⅰ, 児童の音楽リズム。

- 文学部教育学科。道徳教育の研究。国語Ⅰ，国語Ⅱ，教育心理学，国際関係論，教育心理学実験，体育教材，教育学演習－世界の幼児教育，全人教育論。

夏期スターリング。身体表現研究及び
実習，音楽及びピアノ実技。

研修外として，昨年4月より今年度3
月にかけて塾の教養講座で書道を1回や
っていました。又，昨年4月より今年度
7月まで玉川大学の美術部に入っていま
した。

玉川学園での研修を終えて9月には，
国際女子研修センターにてお茶，お花，
救急看護，育児，お料理，アートフラワ

ー，はり絵，育児の研修をしました。日本の文化はもとより，女性として必要な知識も得る事が
出来ました。

玉川学園での研修は私にとって，とっても良かったです。教育のすばらしさ，むづかしさをつく
づく思い知らされました。玉川では教育に対してとても情熱的に取り組んでいて，学園内の校舎，
体育館等の設備はすばらしく，始めの頃はただ，おどろくばかりでした。又，先生方の意欲もすば
らしく，学ばされる事ばかりでした。玉川の教育は全人教育と呼ばれ，人間をもっともっと人間ら
しく育てる教育，各人の個性を伸ばし，直かつ，「全人」として育てる。大学にしても講義内容の
他，観劇，音楽鑑賞，歌舞伎，能楽鑑賞，懐石料理などが教養行事として取り入れられており，人
間の感性を伸ばし，豊かにするという配慮もなされています。私が講義内容の中で興味を持ち，こ
れからも役立つだろうと思ったのは，児童演劇表現研究及び実習のリトミックなどです。又，音楽
リズムの授業も私自身のためにとっても役立ちました。リズム音痴な私なのですが，玉川で朝は歌
に始まり，夜も歌に終わるという生活をしてきて，歌，音楽のすばらしさがわかりました。

先生になるにはまだまだ勉強不足の私ですが，玉川での研修はとても貴重な体験です。これから
も，この体験を生かしてがんばって行きたいと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画は，漠然とした物で具体的ではなかったのですが，研修が始まって見ると私が考
えていた事よりも，大きな研修内容でしたので色々な出来ない事にとまどいながらも学ぶ事が沢山あ
って，内容の濃い研修となりました。南米のような弱肉強食の世界では考えられない，又は，そ
ういった物を目差していても出来ないそんな教育方針が実際に玉川学園にある事に感動しました。

後期研修では前期に出来なかったピアノ実技の授業も受ける事が出来，とてもうれしく思いまし
た。玉川学園外部での実習が出来なかったのが残念ですが，玉川学園でしか受ける事の出来なかつ

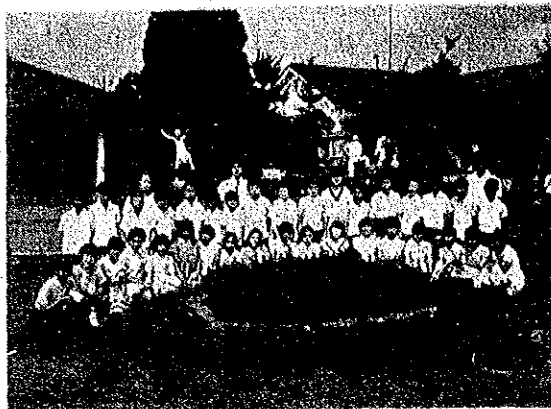


5才児をつれて箱根合宿

た研修をさせて頂いてとてもうれしく思います。

7. 合同研修会について

「OLA, COMO ESTAS?」, 「OI TURMA !!」その時には、日本全国にちらばっている研修生仲間がうれしそうにポルトガル語、スペイン語、日本語を混ぜた言葉で話す。慣れない国での生活、そんな中で合同研修会は皆が「ホッ」と一息つける場でもあり、それぞれの悩みを話し合ったりする意見交換の場であったりします。又、自分を再度見直す場でもあると思います。



研修旅行も日本の文化や歴史にふれる事が出来、とても良い思い出となりました。

8. 本邦での生活状況

日本について間もなく寮生活をおくる事に決まり、「ホッ」としたのもつかの間でした。日本一月謝が高いと言われる玉川大学の寮一塾と呼ばれる寮一に入り、ビックリしたのはその規則のきびしさでした。まず服装、スカートはひざ下、ブラウスはスリーブ付き、夏でもストッキング着用、ノーサンダル、Tシャツももちろんだめ、ズボンは労作時だけ……南国で育ち、いつもジーパンとTシャツで過していた私にとっては、「大変」でした。

月曜から土曜の朝にかけては6時にタイコの音と共に起床。お部屋の清掃、礼拝、朝会食、塾内の掃除、9時から4時10分まで大学での授業（実習は8時20分より6時まで）、4時30分から委員会活動（編集委員会、文集を集めたり、写真を選んだり、レイアウトを作ったり、学生が自分達の手で塾内の年詩制作を行う）6時帰塾、夜会食、7時20分点呼、7時30分～10時まで自習時間及び入浴時間（自習室、浴室以外は消灯）、10時30分タイコの音と共に完全消灯という毎日でした。礼拝には賛美歌を歌い、会食前、会食後にも必ず愛吟集を歌い、いつでもどこかから歌声やピアノが聞こえて来る……そういった日々の繰り返しでした。時には朝の6時15分から始まる労作、秋には落葉はき、冬には雪かきなど、おどろく事ばかりの毎日でしたが、今となってはステキな思い出です。

もう一つおどろいた事は、人間関係のタテのつながりという事です。今までそんな事のなかった私にとってはなかなか慣れる事が出来ませんでした。先生、上級生には必ず敬語を使って話す事、いつでも塾の方々に会ったら「おはようございます」、「こんにちは」等の挨拶、立ち去る時も「失礼します」昨年はこの言葉を上級生の方々に立てつづけに言って舌をかみそうになったこともありました。

半年間、塾の生活のリズムに慣れるのに必死でした。ブラジルからの上級生とパラグアイの斉藤さんが同室でしたので時には消灯後夜遅くまで色々お話しをしたりしました。初めの頃は彼女たち

の顔を見るだけでうれしくなる事もありました。

慣れるにしたがってお友達も沢山出来、生活が本当に楽しくなりました。

塾内で行事がある時はもちろん、学園内で行事がある時も私たち塾生が設置等の労作をやりました。その行事の一つ一つに参加し、それぞれの行事を楽しむ事が出来ました。入学式から始まり、入塾式、毎月の誕生者紹介、合唱発表会、夏祭り、運動会、コスモス祭、体育祭、音楽祭、墓参、クリスマス会、キャロリング、残塾労作、卒業者の送別会、卒業式など、一年半の生活の中で数えきれないほどの体験をしてきました。一つの行事に色々と講想を練ったり、グループで考えて造ったりする楽しさも味わう事が出来ました。体育祭には幼稚部の子供たちと共に参加し、音楽祭には発表1ヶ月前からベートーベンの第九シンフォニーの「合唱」を大学1年生の方たちと一緒に歌う練習をしました。発表後、感激のあまり、日本人の友だちにポルトガル語で話しかけたりもしました。

この1年半、日本で、玉川で生活をした1日、1日がとてもすばらしい思い出となりました。このような体験、経験も、先生となった時に役に立つ事が出来ればとてもうれしいと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

教育がとても遅れている南米にとっては、教育をもっと重要視する人がいかに必要かを感じさせられました。今後も、幼児教育、教育を心ざす人々を研修制度により数多く受け入れて頂きたいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

1年半、幼児教育の研修をしてきたのですが、幼児教育という研修内容だけではなく、人間として成長する事を学ぶ事も出来たと思っています。人間及び教育者として、まだ未熟で、成長段階にいる私なのですが、日本での一年半の研修生活をベースに、これからも成長し続けて行きたいと思っています。

又、父や母の故郷、日本で1年半も研修させて頂いた事をとても感謝しております。

幼い頃から日本に来るのが夢だった私にとって、こんどの研修は夢、それ以上のものの実現でありました。

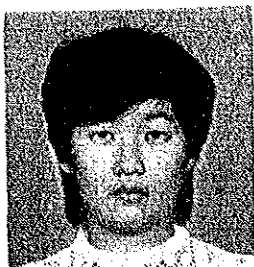
ブラジルに帰って、日本語学校、又は幼稚園の先生になりたいと思っていますのですが、ブラジルは日本と違い、先生という職業があまり重要視されていないため、どうなるかわかりませんが、仕事と並行して勉強も続けて行きたいと思っています。

最後になりましたが、一年半お世話をしてくださいました、国際協力事業団、玉川学園の先生、皆様方に心からお礼を申し上げます。本当に、どうもありがとうございました。

DE CORACÃO

四元 マリア・セレージャ

(ブラジル マラニオン)



1. 研修機関 (1) 前期 宮崎県農協果汁部
(2) 後期 宮崎市野崎漬物部
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月
3. 研修職種 前期：農産加工（果物の加工）
後期：農産加工（野菜：漬物の漬方）
4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）
テーマ：果物の加工。
野菜の加工。
5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

前期研修は、宮崎県農協果汁で分析方法（糖度、酸度、ペーハー、ピベットの使い方、果汁の糖酸の調整方法、缶詰、ジャム、砂糖漬けの検査方法を勉強し、又日向夏みかんのマーレードの作り方、オレンジジュース、オレンジドリンクの作り方を勉強しました。

後期は宮崎市野崎漬物工場で、白菜、にんじん、キュウリ、かぶ、大根、たかななどの漬方（一夜漬）などを勉強しました。

国際女子研修センターで日本の家庭生活、生花、茶道、育児の理論と実際、日本の文化、料理の基本と実習、救急看護、アートフラワー、はり絵、食品加工。の勉強を行いました。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

果物の加工と保存の研修に、実さいに専念でき大変よかったです。ブラジルで電気工学の勉強中でしたが、家では果物の栽培をしているので日本に来たら農産加工の研修が一番適すると思いました。

当初の計画としてパイナップルやパイションフルーツの加工方法を学べると思ってたけれど、日本ではあまりない果物なので、ほかの果物や野菜の加工方法を習いました。缶詰、瓶詰、砂糖漬け、プレザーブスタイルジャムなどの作り方、分析方法、ピベットの使い方、などの勉強をさせて頂いて非常にいい研修ができたと思います。

7. 合同研修会について

センターでの合同研修はとても楽しく過ごし一生のいい思い出になると思います。

昔の話やアドバイスを聞いてすごく参考になりました。

そして、^ら日本のお寺やすばらしい景色、色々な地方を旅行できてとても良かったと思います。

8. 本邦での生活状況

最初の頃は一番困った事は言葉でした。ましてや宮崎べんが全く通じなかったのですごく悩みました。だからホームシックにかかって毎晩泣きました。この状況の中で職場の先輩方の励ましで、やっと毎日の生活が楽しく過ごせました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからの研修制度の期間を二年間ぐらいにしてほしいと思います。私は、言葉や文字（漢字）など日本語では、同じ言葉でも意味が多くあって辞典を引いてもわからない事がいっぱいありました。日本へ研修に来る前に日本語の勉強をしてることが大切だと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

私は、皆より4日遅れて日本へ来ました。なんとか日本に到着することが出来ました。（ベレンで岡田さんを紹介して頂き、そこで1日お世話になり、なんとか日本に到着することが出来ました。

日本の四季は美しいと思う、私の好きな季節は春と秋、夏はムシ暑く、冬は非常に寒い、すばらしい日本を通して体験して来ました。

冬にはよく風邪をひき病院にかよはめになりました1度は入院したくらいです。

両親をはなれてくらすのは、初めての私には、日本での生活はたいへんなものでした。しかしおかげ様で来日した時よりも二倍も三倍も成長したようです。

日本で研修した内容を、ブラジルに帰ってからも一人でも多くの人に教えてあげたいし、私もいろいろな勉強するように心がけたいと思います。

研修先であった宮崎県農協果汁部の研究室の皆様、工場の先輩方、実の父と母のように悪い時はしかってくださり、また、かわいがってくださった工場長夫妻、後期研修をさせて頂きました野崎漬物工場の社長様をはじめ、せんばいの皆様、又、この機会を与えて下さったJICAの皆様、お世話になり心から感謝しています。ありがとうございました。



研修旅行、男鹿半島（秋田）

気 仙 雅 光 (ブラジル サンタレン)



1. 研修機関 (1) 前期 青森高等技術専門校
(2) 後期 同上
2. 研修期間 昭和58年5月～59年9月
3. 研修職種 弱電修理

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

弱電の基礎理論 (学科) と基本実技及び応用実技について学ぶことでした。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

58-5 ~ 59-3

青森高等技術専門校電子機器科で電子機器の基礎理論と基本実習を主に習いました。

電子材料の使い方, 測定器の使い方, デジタルICの使い方, 配線の仕方, 電子回路の組立て, ラジオの故障修理, テレビの故障修理, マイクロコンピュータの基礎的な使い方。

それでテレビの故障修理とビデオの修理をもっと知りたいと思い応用実技として, 日立家電サービスセンター (青森) に行くことにしました。

59-4 ~ 59-8

実際の家電製品 (主として, カラーTV) の修理を青森日立家電K・Kのサービス部門で青森高等技術専門校の実習生として行いました。カラーTV, オーディオと家電製品の修理を行ないました。この応用実習のおかげで電気製品の修理が良くわかりおもしろくなりました。

ただ, ビデオだけはあまり手をつけることができませんでした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私としては, 帰国後電気店をやりたいと思っていますので, オーディオ, TV, ビデオなどの家電製品の修理がうまくできるようになりたいとこの研修に参加しました。

私の目的はほぼ希望どおりの研修ができました。ただ, ビデオの勉強をもう少し行いたかった。

7. 合同研修会について

海外移住センターで行った, 1ヶ月間

の合同研修会は, 私にとって初めての日本での生活を知るために大変良かったと思います。センターでの日本語の勉強がなければ, こんなにうまく日本での研修や生活ができなかったと思います。



8. 本邦での生活状況

ブラジルから日本に来て、着るものや、寮の生活は変わらないのですが、食事の味がブラジルと比べてうすかったように感じました。でもすぐに日本での食事になれました。

寮での風呂の回数がもっと多ければよかった。青森のつがるべんは、いまでもよくわからない。日本での生活で一番困ったのは、日本語です。特に漢字がわからず大変でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

もっと日本のことをたくさん知りたいので、九州や京都などへの見学も行ったかったのですが出来ず残念でした。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本に来て最初に気がついたことは、どこに行っても人が住んでいること、それが全部日本人であることであった。ブラジルと同じく、日本にはもっといろいろな人種の人々が住んでいるものと思っていました。日本では、ブラジルより仕事が見つけやすいと思います。ブラジルでは学校をでも半分位は就職できないことがあります。

青森高等技術専門学校で研修に入った当初は日本語がよくわからず人と話すことが不安であった。でも寮に入ったので友達がたくさんできてすぐ生活になれました。でも、青森はつがるべんが多く理解できないことはいまでも同じです。

日本の学校は、ブラジルとだいぶちがう。たとえば、ブラジルでは半日（午前か午後）だけなのに、日本では一日中勉強します。こんなに長い授業にはとまどいました。ブラジルの学校では教室の掃除がないのに日本ではある。

でも半年位すると、授業にもなれ、ラジオの修理、テレビの修理などむずかしかったが、友達がたくさんできたので授業もたのしくなりました。

学校の行事に八甲田登山、遠足などがあり、おもしろく、たのしいことが多かった。3月頃になると友達がみな就職していくのをみると、私は悲しくなり、さびしい思いをしました。

でも、先生方のおかげで日立のサービス部門に修理を習うために、かようことになり、新しい生活が始まり、よかったと思っています。日立では、日本の会社の事が少しわかり、修理の仕方が良くわかるようになり、また日立家電の会社にも、たくさんの友達ができました。でも、友達と別れなければならなくなった今、少しさびしい気がします。

でも、私にはブラジルに帰り電気店をやる目的があり、今までおそわった事をもっと勉強し成功



したいと思います。

青森高等技術専門学校先生や、日立家電の方々には感謝しています。最後に研修会、日光旅行、東北旅行などたのしい研修を行って下さった事業団の方々に感謝したいと思います。

ありがとうございました。

玉 腰 活 信ジョン(ブラジル ジャカレイ)



1. 研修機関 (1) 前期 愛知県農業総合試験場(養鶏研究所)
浮野養鶏場(愛知県一宮市)
(2) 後期 岡田洋ラン園芸(愛知県豊田市)
2. 研修期間 1983年4月～1984年9月

3. 研修職種 養鶏・洋ラン

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

第13回研修生として応募した時の研修計画は、まず日本語を勉強し、その国についての文化、風土、そこに住んでいる人々の生活などを理解する目的であった。養鶏ではブロイラーの研修をふかく学び、また洋ランではシンビジュームについて学んで行こうと思いました。

5. 研修概要(具体的内容及び成果)

昭和58年4月7日より国際協力事業団海外移住センターで、1ヶ月の日本での日常生活や日本語についての研修を受けました。

この研修は、私にとって大変役に立ちました。

昭和58年5月10日から、愛知県農業総合試験場にある養鶏研究所で6ヶ月間の研修を行いました。養鶏の中で、ブロイラーと採卵鶏の研修を学び、また鶏病、養鶏場の衛生管理(解剖、予防注射、ワクチネーションプログラム)、飼料の研究と分析、卵の試験、産卵の研修、鶏肉の比較(あじ、色、肉つき)、環境による密度などの研究をしました。ブロイラーは55日間で出荷され、2.2kgくらいの体重になるまで色々こまかい管理も必要です。

その他、豊田市、安城市、東栄町などの養鶏場を見学し、地域による施設のちがいも見ました。その中でとくに印象に残ったのは、ビニール鶏舎や二階建の鶏舎でした。

その後、農業試験場の研修を受けてから一宮市にある浮野養鶏団地へ移り5ヶ月間の研修を行いました。ここでは一般的な経営管理を学びました。主に、ひなの管理、移動、ワクチネーション、卵の出荷などの実習を行い、養鶏団地の共同経営も勉強しました。

昭和59年4月から、豊田市の洋ラン農家へ入り、6ヶ月間の研修を行いました。ここでは主にシンビジュームを栽培しており、品種では、マリリン・モンロー、エイコウ、ケニー、ヤスコ、な

があります。研修に入ってから初めての
仕事は3寸ポットから6寸鉢の植え替え
でした。

5月下旬にビニールをとり、すぐに寒
冷紗を張る事になり、特にシンビジュ
ームは、7・8月の暑い時期の管理が大
切で、夜温が25℃以上の熱帯夜が2週
間ぐらいつと、ほとんどのつぼみは茎
だけ残して落ちてしまいます。このた
め、シンビジュームなどの場合山上
げを行って花とびを防いでいる。



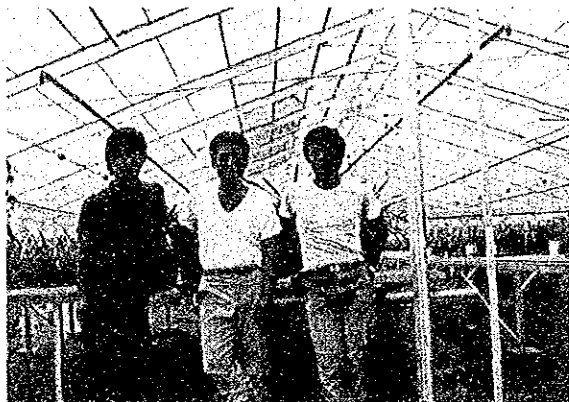
シンビジュームの管理として重要なことは、一番目に葉芽の出る時期を確認し、芽かきを行うこと。二番目に残した芽を順調に生育させるため、肥料と水を十分与えること。三番目に生長を抑える要因となる根腐れ、病虫害に注意すること。四番目に移植、株分けを適期に行うこと。五番目に日除けを適正に行うことです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

研修計画としては、養鶏と洋ランの研修期間を半年と一年行う予定でしたが、養鶏の方が長くなってしまったため、洋ランの方が短くなってしまい、少し勉強不足になりましたが、両方の研修先で大変熱心に、また家族の一員として暖かくしてくださったので、しっかり学ぶことが出来ました。

7. 合同研修会について

第13回研修生として日本へ来てから、早一年半たちましたが、研修中になかなか会えなかった友だちにも、合同研修会により会う機会ができ、東北や関東地方皆さんともいっしょに旅行出来て、お互い励みになりました。またこの楽しい思い出を、写真や心に残すことが出来たのは、うれしく思います。



SAUDADES DELA', DEIXO
AQUI.

8. 本邦での生活状況

愛知県農業総合試験場で半年の夏生活を体験しました。ここでは長い夏の間大きな病気の心配もなく、また、日本語も日常使う言葉は通じましたが、専門的な話になると少し不自由でした。休

みの日には、自炊し街に出かけるのも楽しみでした。先生方や多くの友達に親切にいただき、勉強以外にもテニス、ソフトボール、卓球など、一緒に出来てうれしく思いました。

養鶏や洋ラン農家では、家族同様にいただき、いろいろな所に連れて行ってもらい、また、日本の生活についても教えてもらいました。

私にとって日本での生活は色々な意味で勉強になり、これから先の人生にも大変自身がつき、役立てていけると思います。

VIVER A VIDA, SE CONSEGUE COM AMOR.

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- 日本語を出来るだけ多く勉強してから来ると良いと思います。
- 海外移住センターで、日本についてのいろいろな勉強を教えてもらいたい。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

昭和57年機械関係の研修を終えてから、農業後継者として、養鶏や、洋ランを経営をする事になりましたが、あまり自信がありませんでした。そんな時に国際協力事業団の海外研修について、ブラジル国際農友会から知らされ、少しでも農業について勉強出来るのではないかと思います、日本へ研修に来ることが出来ました。

日本での研修は、養鶏と洋ランを勉強をしましたが、養鶏の方では技術面ではあまり変わりありませんが、機械の導入が多く、よく使われているように思われます。また洋ランの方では新しい品種がブラジルよりもやや早く自動かん水や棚の作り方や、それぞれの設備が進んでいると思います。

帰国後も、日本での研修を参考にして役立て、一生懸命農業に取り組みたいと思います。また、出来るだけ日本で学んだ事を一人でも多くの人に教えてあげたいと思います。

この一年半、国際協力事業団や農友会の皆さんのおかげで色々な事を学び、心からお礼申し上げます。未来は、私達を待っている。

佐藤 裕一ベドロ

(ブラジル モジ・ダス・クルーゼ)



1. 研修機関 (1) 前期 松崎果樹園
(2) 後期 同上
2. 研修期間 昭和58年5月～59年9月

3. 研修職種 果樹

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

- (1) 梨の品種

- (2) うまい梨
- (3) 気 候
- (4) 農業機械
- (5) 農 薬
- (6) 収 穫
- (7) 剪 定
- (8) タナに梨を作る
- (9) 人工受粉
- (10) 梨を鳥から守る

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

- (1) ブラジルには、日本梨はまだ多くありません。
- (2) 研修先の松崎果樹園では、洋ナシの研究もしています。
- (3) 日本では梨は、タナに作られています。そのようにすると仕事も楽になるし、ハシゴは使う必要はありません。
- (4) 梨の休眠には、12℃から17℃ぐらいの温度が、1,000時間ぐらい必要とされています。私の農家（ブラジル）でもそうだったと思っています。
- (5) 肥料について、日本では動物のタイヒが使われています。私の農家ではまだ使われていません。経済的には、最高と思います。あと自然のあじになる。
- (6) 剪定について、なるべく日当たりよくするように、枝をこまないように。
剪定そのものが、果実の味を決定づけるとは思わないが、木の充実の基本が十分な日照を受けることであり、日当たりの良否に、せん定が強く関係します。
- (7) 人工受粉について、日本では花に花粉をつけなかったら果物はつきません
ブラジルも人工受粉も使う必要になってきました。人工受粉は90%効果があります。
- (8) 収穫について、この農家ではアメリカで使われている収穫袋を使っています。このバックは三人分の収穫ができます。
- (9) アミについて、梨を鳥からまもるために、アミで梨をかこむ、100%の効果があります。このアミはあと、風やかからもまもる効果があります。



松崎果樹園での人工受粉作業

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

- (1) 梨をタナに作るのは、とても便利だと思います。
- (2) 経済的には、ものすごい金が使われています。
- (3) 夏には水がたりなくなり、とてもこまっている。
- (4) 消毒に、水を使っているのはとてもきたない水でした。水がくさっている。

7. 合同研修会について

- (1) 合同研修会は私たちにとって、とてもよかったと思っています。
- (2) 日本は歴史が多い所ですが、神社、お寺など、たくさんありました。思い出になりました。
- (3) 日本の景色は美しい、四季がブラジルとは違いはっきりしています。
- (4) いろいろな所に見学しまして、日本の農業、文化、歴史など勉強になりました。

8. 本邦での生活状況

- (1) 初めは、日本の生活になれるまでは大変でした。
- (2) 料理は、なれてからとてもおいしく感じました。
日本の料理には、食用油はあんまり使われていませんでした。
- (3) 農家では、皆さん親切にいただき、とても賑やかな家族でした。
- (4) 初めて経験した日本での地震は、大変こわかったがしずまるとほっとしました。
- (5) 夏はものすごく暑くて、びっくりしました。
- (6) 冬はとっても、きびしかった。
- (7) 日本の乗り物の運賃はとても高いと思いました。
- (8) 日本の電車の中では、よく本を読んでいる人を多く見かけました。



9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

帰国後の経営に必要な機械、道具その他役立つ種類の荷物を研修生毎にまとめて安い運賃で送り、なおかつ無関税で通す方法を講じて欲しい。

NOS ESTAGISTAS, DURANTE O CURSO, UAMOS ADQUIRINDO OS MATERIAIS DE USO NGCESSARIO NO TRABALHO, O QUAL, NO FINAL, PARA TRISTEZA DE TODOS, DEUEMOS, LARGAR ESSES MATEKIAIS, PELA MAL IN FORMACÃO DE TRANSPORTE PARA O PAÍS. O PROBLEMA NOSSO É O TRANSPORTE, ALFANDEGA, TAMBÊM O CUSTO EXAGERADO.

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

日本で学んだことをなるべくそだてたいと思っています。私が学んだことはじぶんのためだけにでないように、皆んなのためがんばってみたいと思っています。日本の農業は小規模でも技術がものすごくすすんでいることを強く感じました。

私のアイディア農業

ESTE ESTAGIO QUE FINALIZAMOS, ESTOU CERTO, DE QUE TODOS, JÃO OBTER SUCESSO NO SEU PAIS .EMBORA, QANDO UOLTAK, HAVERA MUITAS BARREIRAS MAS SAIBA QUE A FORÇA DO HOMEM, BASEIA--SE NA FOKÇA DE JONTADE.

ESTOU CERTO QUE UAMOS EN CONTRAR NOVAMENTE COM TODOS ESPERC NÃO ENCONTRAR DESĂNIMO /

SINTO--ME AGREDECIDO PELOS BONS MOMENTOS, QUE NESTES 18 MESES CONVIVEMOS JUNTOS, POR OUTOR LADO, DEVO A TODOS VOCES A AJUDA QUE ME DERAM PARA ALCANÇAR MAIS UMA EXPERIENUA VIDA

ESPERO TER ALCANÇADO AMIZADES, NÃO SO NESTES MESES, SIM POR LONGAS DATAS ...

AOS COORDENADORES DA JAICA ENOYUKAI, AGRADEÇO PEL FORÇA DESTE INUENTO, ESTEJA CERTO QUE APROVEITEI O MAXIMO.

MUITO OBRIGADO.

小 椋 猛 (パラグアイ フラム)



1. 研修機関 (1) 前期 愛媛県立宇和島専修職業訓練校
(2) 後期 香東電機株式会社
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月
3. 研修職種 強電（低圧部門）

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

第13回子弟研修生として応募した時の僕の研修目的は、現在、移住地で進められている電化計画の力に少しでも力になれるよう、低圧配電から高圧送電まで勉強して帰ることで、それが僕の当初の目的でした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

私の研修内容は強電です。

前期研修の1年間は愛媛県立宇和島専修職業訓練校の電気工事科で、電気工事に必要な基礎の研修を受けました。訓練校での日課は2月期末（12月末）までは、午前中学科で午後は実習でした。そして3月期からは、1日中実習の日が多くなりました。

僕が訓練校で勉強した、科目は電気理論、電気工事、配電、電気法規、電気機器、電気機器修理、電気応用、測定、電気の製図、電気材料でした。

最初に教科書を手渡されたときは、本当に全部理解できるだろうかと不安になりましたが、先生方がとても親切に説明して下さったので、他の訓練生の人達に遅れることなく、無事1年の前期研修を終えることができとてもうれしく思います。

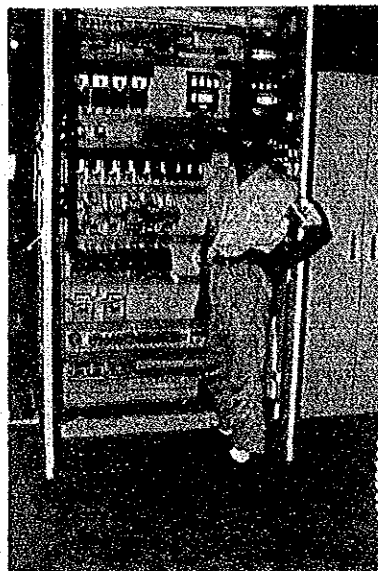
〔成果〕 1. 訓練課程の中で行なわれた、技能照査に合格。（技能士補の合格証書）

2. 低圧電気工事士免状の取得。

後期研修は、香川県高松市にある、香東電機株式会社（KÔTÔ DENKI K.K）で動力制御盤を主体に、設計部門で2ヶ月、組立部門で3ヶ月、製品検査部門で1ヶ月の割合で研修させていただきました。

設計部門ではJIS規格（日本工業規格）JEM（日本電気工業規格）、IEC（国際電気規格）の規格による設計、行ない方や各種回路の設計の行ない方等の知識を得ることができました。又設計課では、前期研修で勉強した、電気法規が後期研修でも大いに役立ちました。

組立部門では、動力制御盤、警報盤、分電盤等の組立配線の作業方法、電線の曲げ方、各動器具の取り付方等を実施研修しました。検査部門では組立完了した製品の配線チェックや、各種製品に組込まれる部品の受入試験等の行ない方を勉強して来ました。



6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の僕の研修計画は、電気の低圧部門から高圧部門まで勉強する予定でしたが、考えていたよりも広く勉強しなくてはならないので、1年半と言う限られた期間ではとても無理だと考え、特に低圧部門を専攻して研修を進めさせていただきました。今考えると、低圧部門だけを専門として来て後期の研修でも僕なりに十分活かすことができたことにととても満足しています。

7. 合同研修会について

僕はいつも合同研修会を楽しみにして来ました。全員が出身地は別々でも毎回楽しく過ごせたこと

とが、研修の大きなはげみになりました。

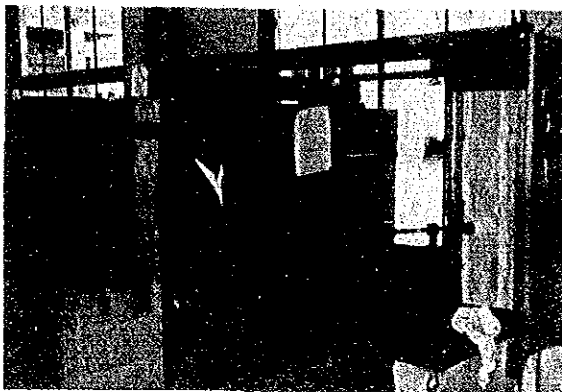
又、2回にわたって行かせてもらった研修旅行では、東京見物、日光、中禅寺、華嚴の滝、東照宮、松島海岸、瑞巖寺、毛越寺、中尊寺、小岩井農場、田沢湖、男鹿半島、入道崎、十和田湖などと、日本の美しい土地や日本の古い文化に接することができ、とてもうれしく思っています。

8. 本邦での生活状況

前期の研修地では、僕にとって初めての下宿生活に入りました。来日して4日目から皆さんと別れて一人で生活するようになり、とても不安でしたが、1週間ぐらいで訓練校の人達とうちとけ合えるようになり、早く皆さんと友達になれて1年の楽しい日々を過ごしました。

後期の研修でも下宿生活でしたが、早くなれることができました。又後期研修先では会社の旅行で、九州に行くことができとてもうれしく思いました。

又、各研修先では研修修了の際には研修地の方々に盛大な送別会をしていただきとても感激しました。



9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからもこのような研修制度を続けていただきたいと思います。そして海外で生活している1人でも多くの移住者子弟の人達に日本の優れた技術を伝えていただけるようお願いします。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

僕は今回の第13回移住者子弟研修生として日本に来ることができてとてもうれしく、光榮に思っています。なぜなら、日本の優れた技術を勉強することができたことが最も大きなよこびです。又、写真などでしか知らなかった親戚の人達とも知りあえて、研修中はとてもお世話になりました。

僕は帰国後はなるべく日本で学んだ技術を少しでも活かして行きたいと思っています。又、機会があれば来日できるよう努力して、今までの研修期間中に知り合った人達に逢えるよう頑張りたいと考えています。



最後になりましたが、僕にこのような研修の機会を下された国際協力事業団の皆様をはじめ、この1年半の研修期間中にお世話になった研修先の方々に心よりお礼申し上げます。

この1年半、本当にありがとうございました。



高橋 幸夫(パラグアイ アルト パラナ)

1. 研修機関 (1) 前期 久万農業協同組合農機センター
(2) 後期 北海道久保田トラクター販売株式会社
道東支社 サービス課
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月

3. 研修職種 農業機械

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

第13回移住者子弟研修生として応募した時の私の研修希望内容は、農業機械でした。私が生まれ育ったパラグアイ イタプア県 ピラボ移住地の農業は、大型機械化になり、シーズン中故障で機械が2、3日止まることがあり、大雨などで作物がダメになることがあります。少しでもこのような損害を防げたらと思い、農業機械について勉強したいというのが当初の私の研修計画でした。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

愛媛県久万農業協同組合農機センターにおいて、一般の修理を手伝い、見習いのような形で技術研修が始まりました。三ヶ月後には農協を通じて、岡山市全農岡山講習所で、1ヶ月間にわたり、農業機械基礎講習とガス溶接技能講習を受けることが出来ました。

この講習会では、①農用エンジン、②動力噴霧機、③乾燥機、④田植機、⑤耕運機、⑥刈り取り機、⑦バインダー、⑧自脱型コンバイン、⑨小型乗用トラクターなどの基礎的知識を得ることができました。

9ヶ月後には、同じ全農岡山講習所で小型乗用トラクター整備技術講習会に参加し修了しました。この時は、一週間の講習会でした。

後期研修は、普通型コンバイン、大型トラクター、自走コーンハーベスターなどの実地研修を北海道の久保田トラクタ販売会社で行いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画としては、農業機械、特に大型機械の修理、整備技術をマスターすることでした。前期研修は、小型機械しかない四国でしたので大型機械は後期だと思いましたが、範囲が広いため6ヶ月間では思い通りの勉強が出来ませんでした。研修期間を延長して大型機械の勉強を行う予定です。

7. 合同研修会について

研修中唯一の楽しみは、皆さんと会うことができる合同研修会でした。慣れない日本語で専門的技術を身につけて行くのには、つらいことが数多くありました。

同じ様な悩みをもつ同期生とスペイン語又はポルトガル語で自由に語り合うことができ研修の励みになったりしました。研修旅行では日本の名所や、史跡等を見ることが出来いい勉強になりました。

8. 本邦での生活状況

1年半の研修生活では、良かったこと、つらかったこと、いろいろありましたが、心配していた病気やけがはなく無事研修生活を終ることができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項として：研修生の出身地、あるいは、親の出身地親せき等を考えないで、研修生の希望に近い受け入先をさがしてください。今後、大型農業機械を希望する方があれば北海道で研修することがよいと思います。

10. 所感（帰国後の抱負を含め）

南米の国々は、激しいインフレにおおわれています。農業機械の価格も上がる一方です。このようなことで現在使われている機械を少しでも長く使うようになり、高度な整備技術が要求されるようになっていきますので、帰国後は、研修で学んだことを生かし、又、新しい技術を取り入れ、地域住民の役に立ちたいと思います。

最後になりましたが、国際協力事業団の皆様、ほんとうにありがとうございました。おかげ様で無事修了式をむかえる事ができました。繰り返し心からお礼申し上げます。



松尾 やよい (バラグァイ フラム)



1. 研修機関 (1) 前期 高知女子大学保育短期大学部
(2) 後期 太平保育園(札幌市北区)
2. 研修期間 昭和58年4月～59年9月
3. 研修職種 保母

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

当初の研修計画としては、保母資格を取得することが出来ればと思ったのですが、当大学での取